

会 議 録 (1)

会 議 の 名 称	令和6年度 入間市公民館運営審議会（第2回）
開 催 日 時	令和6年12月19日（木） 午前10時30分 開会 ・ 午前11時45分 閉会
開 催 場 所	入間市役所 4階 大会議室
議 長 氏 名	西澤裕子
出席委員(者)氏名	森田匠 伊與田麻利 西澤裕子 塚原とみ子 双木茂芳 木下英次
欠席委員(者)氏名	中西一敏 岡崎幸子 開坂武
説明者の職氏名	社会教育課主幹 奥村芳人
会 議 次 第 (公開・非公開の別)	1 開会 2 委員長あいさつ 3 協議事項 (1) 「世代間交流による地域活動」について 4 報告事項 (1) 令和8年度からの公民館利用方法の見直しについて (2) 令和6年度公民館文化祭来場者数等報告 (3) 公民館事業中間報告 5 その他 6 閉会
非 公 開 理 由	
傍 聴 者 数	0名
配 布 資 料	1 「世代間交流による地域活動」事例発表 2 令和8年度からの公民館利用方法の見直しについて 3 公民館文化祭来場者数等一覧表 4 公民館事業中間報告
事務局等職員職氏名	教育部部長 浅見泰志、社会教育課長 浅川英雄、 主幹 奥村芳人、主事 山本絵実、主事 岩崎楓
会議録作成方法	要点筆記

会 議 録 (2)

議 事 の 概 要 (経 過) ・ 決 定 事 項

○概要

下記の点について、元気が出るふじさわ未来ネット代表の齋藤勝久氏より事例発表を行う。内容について運営審議委員より確認等のある場合は、質疑応答を行う。

今回審議において特に議決すべき案件はなく、委員及び事務局との間の質疑応答と各委員の意見提出のみが行なわれた。

(質疑応答の詳細については、会議録(3)による)

1 協議事項

- (1) 「世代間交流による地域活動」について 事例発表
元気が出るふじさわ未来ネット 代表 齋藤 勝久 氏

2 報告事項

- (1) 令和8年度からの公民館利用方法の見直しについて
- (2) 令和6年度公民館文化祭来場者数等報告
- (3) 公民館事業中間報告

会 議 録 (3)

発 言 者	発 言 内 容
西澤議長 (黒須公民館)	本日の出席委員は6名で会議は成立する。それでは、「世代間交流による地域活動」について参考となる先進的な実践事例を、元気が出るふじさわ未来ネット代表の齋藤 勝久 様より発表願う。
齋藤 勝久 氏	(「世代間交流による地域活動について」事例発表) 元気が出るふじさわ未来ネットは、入間市の SDGs パートナーの認定を受けている。平成31年2月に「元気が出るふじさわ未来ネット」を設立した。藤沢地区で子ども会がなくなり、未来の子どもたちを地域で育てていきたいという思いが、最後の子ども会会長から話があった。自治会では難しいということで、有志を募ったことがスタートである。 活動体は、12ある。集会所や畑などを借りて活動している。会員数は、協議体メンバーは32名。それ以外のスタッフや活動参加者は、約140～150名参加している。活動の原資は、市からの補助金、自治会の方からの資金、あるいは企業(福祉財団)の補助金や自主活動の売り上げを資金にしている。 コンセプトは、「地域の問題は地域で考え地域で解決しよう」である。地区によって色々な実情があり、それを知っているのは地域の人たち。その人たちが集まり、解決していく。まちをどうしようかという、「自分事として夢と魅力ある地域を造り上げたい」というのがそもそもある。自分事として夢と魅力というのは、未来への夢。魅力は我々が考えるものではなくて、我々以外のものが、例えば未来ネットってどんな魅力があったのか、そういう魅力というのは、我々以外の人々がどのように考えていただけるか。地域で活動するには、魅力がないと活動がなかなかできないため、それも含めて自分事として夢と魅力ある地域づくりをしていきたい。 コンセプト2つ目として「活動運営の基本」が3つある。様々な関連機関との連携を強めていかないと、なかなか1つだけで運営ができないため、様々な連携を深めている。それから、無理のないボランティア活動をしている。無理をするところから歪みができるため、できる範囲内で活動している。もう1つは、参加者と一緒に楽しめる活動が一番大事である。何か企画をしても楽しめなかったら何も意味がなく、一緒になって楽しめることがますます継続できることかと思う。 3つの大きなコンセプトの中で常に活動していくために、「緩い組織」に務め、あまり難しく考えないで、ただ同じ方向に向かっていけばいいと思う。「やりたい感のある活動」は、やらされ感ではなく、やりたいなと思う活動。「一緒に楽しめる活動」、「地域が賛同できる活動」は、我々は地域も一緒になって活

発 言 者	発 言 内 容
	動していきたいと考えているため、地域が賛同できなければ長続きしないと考えている。「内部情報の共有」は、役員の定例会を月1回行い、情報交換をしている。あと、「行政との関係」を大事にしている。市が活動を認め、ある程度バックアップしていると、とても活動がしやすい。地域の人たちは、未来ネットの名前を知らないため、共催や協力など市の名前をチラシに入れさせていただくと、地域の人たちも参加しやすいのかなと考えている。 次に、「地域との繋がり」について。これはとても大事にしていく必要がある。行政、企業、関係団体等様々な団体との関連を強く持っている。企業としては、情報発信をしていきたいと思い、エフエム茶笛や入間ケーブルテレビと連携して行っている。関係団体には、藤沢中央区長会、消防団、入間市子ども食堂ネットワーク、フードバンクいるま、日々輝学園高等学校。日々輝学園高等学校は、地区の活動と一緒に学校を盛り上げていきたいということで一緒に取り組んでいる。 また、団体との具体的な繋がりについて、行政の繋がりには、e スポーツを進めたく、スポーツ推進課と進めていきたいと思い、健康福祉センターまつりでスタートアップしようと考えている。市民提案型協働事業は、地域振興課と中学校で一緒になって行っている。子どもの居場所事業、催し物、入間市社会福祉協議会との情報交換も行っている。前橋市の社会福祉協議会が未来ネットのホームページを見て、視察を引き受けた。また、事務局も必要であるため、藤沢地区包括支援センターが協議体に入っていたら、事務局をお願いしている。 地域との繋がりについて、藤沢地区商工会とハッピーハロウィンをおこなったり、活動の掲示やPRは、イオンスタイル入間店を活用したり、エフエム茶笛で夢プロ日記を毎週木曜日午後6時5分から15分放送している。あと、自治体との繋がりには、夏祭りの実施、夕涼みコンサート、万燈まつりで夢文字を竹あかりで作成した。藤沢地区センターを含む地域防犯パトロールも実施している。 世代間交流について、11の活動体があるが、子ども対象、中学生・高校生（生徒・学生）、高齢者、地域、市・その他にカテゴリー別にした。世代間交流で一番様々な層が参加できるのは、「ふじさわファーム未来畑」である。 活動体の動きとして、「藤沢スマイル」は、子ども向け、高齢者向け、地域、その他、地域の幼稚園や高齢者の介護施設でも活動している。人事院公務員研修所の研修生が藤沢スマイルの活動に参加し、汗を流しながら体験いただいた。 「おすそ分けの会」は、元民生委員で料理が好きな方がいて、例えば、藤沢スマイルで子ども向けの活動をしたときに、午前中から午後にかけて活動する際に、食事を提供した。あるいは、ふじさわファーム未来畑で採れた食材を使って地産地消してみようとか、SDGsによい活動をしてみよう等があった。カテゴ

発 言 者	発 言 内 容
西澤議長 (黒須公民館) 双木委員 (金子公民館) 齋藤 勝久 氏	リーでは子ども向け、中高生向け、高齢者向け、地域住民向けの4つである。 「ふじさわファーム未来畑」は、子ども向け、中高生向け、高齢者向け、地域住民向け、その他の5つのカテゴリーである。子ども向けに収穫祭を実施した。畑は300坪の大きな畑である。スタートは雑草ばかりだった。地元の地主が高齢になり、どうにかできないかという話があり、面白いからやってみようという意見で始めた。2年目から、なかなか手が置けないので中学生、高校生に声をかけた。畳1枚分の看板を作成いただいた。収穫も子どもたちと一緒にやって行く。子どもたちが来るのは月に1回だが、その時におすそ分けの会の人たちが料理をふるまっている。 「未来の子どもたちへの夢プロジェクト」は、市との協働事業。一昨年お金をいただき、未来の子どもたちへの夢プロジェクトを作った。今の子どもたちが中心になって物事を考え、それを地域の人と一緒に活動している。我々が考えてお願いするのではなく、子どもたちが考えて我々にお願いするという考え方でスタートした。1年間終わった後に報告会を実施した。いるま官民共創まちづくりシンポジウムでは、藤沢中学校、上藤沢中学校の生徒4名が登壇し、市長とのシンポジウムを行った。 「元気いっぱいGGBs」は今年一番初めに誕生したグループ。竹あかりで夢文字を作成し、約250個の竹あかりを作成した。 「元気なふじさわ☆大作戦」は、全活動体で活動している。活動を始めた際、コロナ禍であり、活動をやめようか悩んだが、コロナに負けてはいけないということで、初めの名前は、コロナに負けない!元気なふじさわだった。最初の活動として風船飛ばしを行い、広報いるまの表紙に掲載された。今は元気いっぱいGGBsの竹あかりを含めて活用している。以上で発表を終わりにする。 齋藤勝久様、ありがとうございました。何かご質問はあるか。 活動日は決まっているのか。 藤沢スマイルは毎週月・木曜日に活動し、40～50名参加している。そこは募集を行ってなく、自然に人が集まり約100名いる。地域に理解していただいている活動体の1つかなと思う。段々人が増えていくと公民館の中で活動できなく、コロナの関係もあったが外に移動した。そこに来る人を見て、面白いからやってみようということで参加人数が増えた。その他は月に1回程度。未来畑は毎週活動していて、中学生が来るのは月1回。

発 言 者	発 言 内 容
西澤議長 (黒須公民館)	他にあるか。
伊與田委員 (扇町屋公民館)	協議体メンバーの年齢層はどうか。
齋藤 勝久 氏	平均すると約50～60代。30代後半の方が3人。40代の方が2人。活動しているのは定年後の60代70代。やらされ感よりもやりたい感がある。
西澤議長 (黒須公民館)	他にあるか。12活動体があるなか、最初にお声がけした方はどなたか。
齋藤 勝久 氏	一番始めは、最後の子ども会会長（ふじさわキッチン会長）から、子ども会がなくなるため何かやってほしいという相談があった。集まった方々から、他のことも実施してみようという提案があった。平成31年に活動をはじめ、令和2年から1つずつ増えた。
伊與田委員 (扇町屋公民館)	それまではそれぞれが活動していたのか。そのような方たちにお声がけしたのか。
齋藤 勝久 氏	そうである。活動していく中で、こんなこと面白そうだねという思いに変わり、活動を始めた。共通しているものはほとんどなく、自身の考えを持っている。元気いっぱい GGBs は、女性の高齢者はコミュニティができているが、男性のコミュニティがなく、男性の居場所を作ろうということで誕生した。ものづくりをメインに活動している。何をしようか考えたとき、竹あかりを作り始め、万燈まつりに向け制作した。
西澤議長 (黒須公民館)	最初のコンセプトに共感された方が、集まっている。
齋藤 勝久 氏	未来畑は、畑を探していた訳ではなく、地元の地主が声をかけていただいたのがきっかけである。
木下委員 (藤沢公民館)	色んなネットワークを有効に活用している。様々な企業等も協力している。
齋藤 勝久 氏	活動するにはお金が必要。企業から助成金を使わせていただいている。e スポーツを検討しているが資金がないため、企業に相談をした。色々団体があると声を掛けてくれる団体がある。
西澤議長 (黒須公民館)	他にあるか。なければ、齋藤勝久様についてはご退出いただく。 ただ今の事例を受け、世代間交流による地域活動について委員のみなさまの考えをお聞かせいただく。
伊與田委員 (扇町屋公民館)	行動力とネットワークを大事にされる姿勢、柔軟性、発想の転換、子ども主体の会議等の話にとっても驚いた。理想的な世代間交流をなさっていると思う。私が所属している扇町屋地区センター久保稻荷分館においての世代間交流は、公民館

発 言 者	発 言 内 容
森田委員 (金子中学校)	まつり、文化祭にあたる。今年は扇小学校の記念行事にあたり、いつもなら小学生が多く来館するが、それがなく少し残念だった。準備にあたっては、これまでには向原中学校の生徒がボランティアで準備片付けを行っていたが、コロナ禍で途絶えてしまった。子どもたちと触れ合えるとてもいい機会だと思うので、また機会があつていいと思う。 学校は、コミュニティ・スクールが始まっている。学校が抱えている様々な課題は、学校だけで解決するには難しいことが多くあり、地域の色々な団体にご協力をいただきながら解決を図っていく。あるいは、地域で何かイベントをしても人が集まらないので、学校の生徒が行くことで解決するイメージだった。しかし、困ったことを解決するというマイナスをゼロにするよりは、もっと夢のあるような前向きなプラスを作っていくイメージを受け、とても素晴らしいと感じた。子どもたちが地域に出ることは、自分の貢献している地域に役に立つ、あるいは感謝をされる。このような経験は、とても大事であるため、コミュニティ・スクールを推進していきながら地域と関わるのが本当に大切だと確認した。
木下委員 (藤沢公民館)	藤沢地区で活動している私としても、本当によくやっていただいていると思う。先ほど申し上げたように、大事なことは、ネットワークをよく活用し、次から次へ様々な方とお話をして情報を集めて活用し、皆さんに報告後に結果をきちんと検証しており、とても感心する。さらに、今度はe スポーツなど次に向かって新しい活動を展開しており、感激する。e スポーツという新しい取り組みもあるが、藤沢スマイルは、50代、60代も参加しており、毎週公民館でラジオ体操を行っていて、以前から行っていた活動も継続して行っており、大変素晴らしいことだと思う。一人だけの情報ではなくて、他の方から色々聞いて情報を多く活用していて、とても素晴らしいと思った。
塚原委員 (東金子公民館)	今日は世代間交流による地域活動の事例発表を楽しみにしてきた。とても勉強になった。
双木委員 (金子公民館)	スポーツ協会では、子どもたちから高齢者までお付き合いしている。根岸においては、東金子地区、金子地区と協力し、今後の活動を検討していく。
西澤議長 (黒須公民館)	他に何かご質問、ご意見はあるか。 私の感想は、高倉スマイル広場を5年間活動している。徐々に地域に定着してきた。この間も219名の参加で、ボランティアの方も大勢いらっしゃった。5年が経ち、これからどうしようかと考えていたところだった。今日のお話はとても参考になり、できれば私たちの運営委員の人たちも直接お話を聞く機会があったらいいなと心から思った。もし社会教育課の方で企画をしていただければありがたい。 何か質問はあるか。なければ、協議事項を終わりにする。

発 言 者	発 言 内 容
	続いて、報告事項に移る。「令和8年度からの公民館利用方法の見直しについて」事務局から説明願う。
奥村主幹	(「令和8年度からの公民館利用方法の見直しについて」説明)
西澤議長 (黒須公民館)	ただ今の説明について、質問はあるか。
伊與田委員 (扇町屋公民館)	最後に説明いただいた「団体の活動内容による使用料減免基準」(2)検討中の見直し内容の2つ目について、区分変更、内容変更がよく分からないため、説明願う。
奥村主幹	現在、免除・減額となっている団体について、条例上3区分になっている。区分変更とは、例えば、現在免除だが、サークル活動と実態が変わらないため減額に変更する。事務局しか持っていない区分表があるが、高齢者団体や青少年団体、伝統芸能を行っている団体等は免除になる。という区分がある。一定の区分団体に関しては、サークル団体と同じ金額にする等の区分の見直しを検討している。内容変更は、例えば高齢者団体だと、高齢者団体のうち、実情がサークル活動と変わらないため、その団体をサークル活動と同じ扱いに変更する等を検討している。
西澤議長 (黒須公民館)	他にあるか。
木下委員 (藤沢公民館)	サークルの発足時に5人以上について。始まった時の5人はいいいと思うが、現在というのは毎年見直すということなのか。
奥村主幹	毎年サークル情報を更新しており、会員数等を報告いただいている。他の市町村は、公民館の施設利用については、現状5人以上のサークルが条件となっている。
木下委員 (藤沢公民館)	実際には、5人以下のサークルが結構ある。その辺をどのように絞っていくかを慎重に行わないといけないと思う。
浅川課長	入間市の場合は、個人でも部屋を借りることができる。お金の問題もあるが、他市町村は、基本的にはサークルは団体活動でないといけない条件もある。公民館として便宜を図って貸し出す条件の1つとなっている部分もある。入間市はさらに個人でも使用できるため、入間市と他市町村の状況を見ながらこれから考えていく。
西澤議長 (黒須公民館)	他にあるか。続いて、「令和6年度公民館文化祭来場者数等報告」事務局から説明願う。

発 言 者	発 言 内 容
奥村主幹	(「令和6年度公民館文化祭来場者数等報告」説明)
伊與田委員 (扇町屋公民館)	複数の方からご意見いただいた。扇町屋地区センター久保稲荷分館における文化祭において、サークルが展示をすぐ回収したいという限りでない場合は、1週間ほど展示物に関しては見たかった。という意見があった。 狭山市在住の方から参考に意見を聞いた。狭山市は、市全体で全館あげて同じ日に開催している。その日は公民館を色々まわる。展示物を見たり、催し物を見たり、お食事もできたりという1つの行事になっている。展示が1日で終わるのはもったいないと感じる。もう少し他の公民館を見てみたかったなと思う。
西澤議長 (黒須公民館)	貴重なお意見をありがとうございます。私も同感であるので、来年度色々よろしくをお願いします。
伊與田委員 (扇町屋公民館)	ご検討よろしくお願いします。
西澤議長 (黒須公民館)	他にあるか。続いて、「公民館事業中間報告」事務局から説明願う。
奥村主幹	(「公民館事業中間報告」説明)
西澤議長 (黒須公民館)	ただ今の事務局の報告について、何かご質問、ご意見はあるか。 なければ、これをもって報告事項を終了する。 以上で、議長の任を解かせていただく。ご協力に感謝する。
議事のてん末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。 令和7年 2 月 4 日 議 長 の 署 名 <u>西澤裕子</u>	

